

2012年(平成24)9月

カルメル 靈性センターニュース



120 S. RAFFAELLE ARCANGELI

© 1984 S. RAFFAELLE ARCANGELI

2012年9月

279号

目次

特集

教皇ベネディクト十六世の

265 回目の一般謁見演説(4) ・ 1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・ 48

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

特 集

教皇ベネディクト十六世の265回目の一般謁見演説（4）

「リジューの聖テレーズ」について

2011年4月6日（水）午前10時30分から、サンピエトロ広場で、教皇ベネディクト十六世の265回目の一般謁見が行われました。この謁見の中で、教皇は、2011年2月2日から開始した「教会博士」に関する連続講話の第8回として、「リジューの聖テレーズ」について解説しました。以下はその全訳です（原文イタリア語）。

※ 霊性センターニュース5月号～9月号に連載しています。

福音と切り離すことのできない聖体は、テレーズにとって神の愛の秘跡でした。神の愛は、わたしたちをご自身へと上げるために、極みまで降ります。最後の手紙の中で、聖女は幼いイエスがホスチアの中に示す姿について、次の単純なことばを述べています。「わたしは神さまを恐れることができません。神さまはわたしのためにこれほど小さくなってくださったからです！……わたしは神さまを愛します！実際のところ、神さまは愛とあわれみ以外の何者でもないのですから」（LT 266）。

テレーズは福音の中に何よりもイエスのあわれみを見いだします。そこで彼女はいいます。「神さまはわたしに無限のいつくしみをくださいました。それでわたしはこのいつくしみを通して、神さまのほかのすべての完全さを眺め、礼拝します……！するとすべては愛に輝いて見え、正義さえも（たぶんほかの完全さよりもなおいっそう）愛に包まれているように思えます……」（『自叙伝』：Ms A, 84r〔前掲邦訳、265頁〕）。

そこで彼女は『ある靈魂の物語』の最後のところでも、自分についてこう述べます。「福音に目を向けさえすれば、すぐにイエスさまの生活の香りがして、どちらのほうに走ればよいか分かります……。わたしが飛んで行くのは、いちばん上席のほうにではなく、いちばん末席です。……そうです、わたしは感じます。たとえ人が犯すことのできるありとあらゆる罪を良心に感じたとしても、わたしは痛悔に心

を砕いて、イエスさまの腕の中に身を投げることでしょう。主が、立ち返る放蕩息子をどれほどかわいがるか、よく知っていますから……」（同：Ms C, 36v-37r [前掲邦訳、382-383 頁]）。

それゆえ、「信頼と愛」が、テレーズの生涯の物語が最後に到達した地点です。この二つのことばは、灯台のように彼女の聖性の歩み全体を照らします。それは、自分と同じ、靈的幼子の「信頼と愛に基づく小さな道」へと人々を導くためです（Ms C, 2v-3r; LT 226 参照）。

自分を神のみ手にゆだねる幼子のような信頼は、まことの愛の強く、徹底的な献身と切り離せません。愛は自分のすべてをとこしえに与えることだからです。聖女がマリアを仰ぎ見ながら述べるとおりです。

「愛するとは すべてを与え

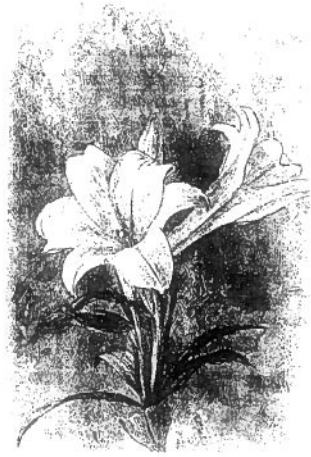
自分自身をも与えることです」（「何故、わたしはあなたを愛するか、おおマリア！」：P 54/22 [前掲伊庭昭子訳、341 頁]）。

こうしてテレーズはわたしたち皆に示します。キリスト教的な生活は洗礼の恵みを完全に生きることのうちにあります。そのために、自分のすべてを御父の愛にささげなければなりません。それは、聖霊の炎のうちに、キリストと同じように生きるためです。聖霊は人々に対するキリストの愛そのものだからです。

（カトリック中央協議会 司教協議会秘書室研究企画訳）（2011.4.7）



心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一巻

第二十三章 死を黙想する

9 祖国に向かって

この世では、自分は地上のわずらいにかかわりのない旅人であり、客人であると考えなさい。自分の心をいつも自由にし、高みにある神に向けなさい。なぜなら、「あなたは真に不滅の国をここに持っていないからである」(ヘブライ 13-14)。祈りと日々のあこがれと涙とを神に向けなさい。そうすれば、体が死んだ後のあなたの靈魂は、幸いにも主のもとに昇るであろう。アーメン。

第二十四章 罪人の審判と罰

1 正しい審判者

あなたは、すべてのことにおいて最高の目的を見いだしなさい。いつの日か、あなたは、すべてを見抜くお方、贈り物でごまかせず、口実が理由にならず、「正義に従って裁く」(イザヤ 11-4)、厳しい審判者の前に立たなければならないと思いなさい。ああ、みじめで愚かな罪人よ、怒っている人の前でさえ震えるあなたは、すべてを知っておられる神のみ前に出て何と答えるのであろうか？なぜ、審判の日に備えようとししないのか？

その日には、誰一人として、他人から弁護も保護も受けられない。人はおのこの十分な荷を背負っているのである(ガラテヤ 6・5 参照)。今こそ、あなたの苦労には功德がある。あなたの涙は神に喜ばれ、あなたの祈願は聞き入れられ、あなたの苦しみは償いと清めになるのである。

イエスさまは

本当に悟りつくせないほどの愛で
わたしたちを 愛しておられます。

わたしたちにも

ご自分といっしょに人々を救うため
一役買わせようとお望みです！
主は わたしたちの協力なしに
何一つなさりとくはないのです。



～ 幼いイエスの聖テレーズ ～

病床で十字架にバラの花を撒く
テレーズ

9月30日はテレーズの命日です。テレーズは二四歳で亡くなる前に次の言葉を残しています。「まもなく、わたしの使命がはじまろうとしています。わたしが愛しているように人々に神さまを愛させる使命、人々にわたしの“小さい道”を示す使命が」。テレーズには確信がありました、「わたしは死ぬのではありません、いのちに入るのです」と。

帰天後115年になるテレーズの死後の活躍は、確かに聖女の言葉を立証しています。それにしても、二四歳で死ぬまでテレーズは一体なにをしたのでしょうか。一五歳でカルメル会観想修道院に入り、亡くなるまで修道院の高い塀から一步も外へ出ることはありませんでした。厳しい祈りの生活をひたすら人々の救いのために生きていたのです。修道院から一步も出ることのなかったテレーズは死後、日本にキリスト教をもたらした聖フランシスコ・ザビエルと並ぶ「宣教師の保護の聖人」に、そして帰天100周年には女性として三人目の教会博士に挙げられました。

このような彼女の死後の驚異的活躍の秘密はどこにあるのでしょうか。それは神の慈しみの愛へのテレーズの深い信頼と希望です。「わたしが愛しているように、人々に神さまを愛させる使命」がはじまろうとしていると臆することなく言っていたテレーズ。わたしたちの日常の生活でなに一つつまらない、無意味なものはないのです・・・幼子のような信頼をもって父なる神との親しさに生きるならば。その親しさに生き、神のいのちそのものに生かされるようすべての人は招かれています。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

インドネシア紀行〈1〉

くのり 彰

先日、インドネシアでカルメル会の東アジア・オセアニア地区の会議があり、I神父と共に参加してきた。会議の場所は、バリ島のデンパサール。有名なクタ・ビーチのある、世界中から大勢の観光客がやってくる場所である。

こういふと、豪華なホテルに泊まり、毎日、贅沢三昧に暮らしていたのではないかと想像される方もおられるかもしれないが、まったくの誤解である。私たちが泊まったのは、教区の経営する古びた黙想の家（25室程度）。中の設備も質素であった。洗面所には鏡がなく、シャワーはちよろちよろとしか出て来ない。水しか出ないのだと思い込んでいたところ、何回目かに長く使用したら、終わるころにお湯が出てきた。

何よりも日本と違うのは、トイレである。インド文化圏で、用を足した後は、水で洗うのである。前回、2006年にジョグジャカルタでの会議に参加した経験から、トイレには紙がないことを想定、I神父にもトイレット・ペーパーを持って行くように勧めた。ところが今回は、トイレット・ペーパーが始めから準備されていた。6年の間に、インドネシアは大分変わったのだと考えを改めたが、そうではないことが、帰国前日に判明。

というのも、会議の後、いくつかの養成共同体（一人前のカルメル会士となるためさまざまな養成を受けなくてはならない）を、インドネシアの管区長と共に訪問した後、日本に帰るために、再びデンパサールに一人でもどり、また同じ黙想の家に宿泊したところ、トイレに入ると、トイレット・ペーパーはなし。持参したトイレット・ペーパーは、もういらないだろうと前の修道院に置いてきてしまっていた。（因みに今回の部屋には洗面所はなし。）

受付にトイレット・ペーパーをくださいと頼みに行くと、それは自分で買ってきてくださいとのこと。幸い近くにコンビニがあり、そこで4ロール1パックのもの――明日、日本へ帰るといふのに――を買い、黙想の家にもどる。だが日本円に換算すると、わずか52円である。

要するに、最初泊まった時、部屋にトイレット・ペーパーが用意されていたのは、開催国であるインドネシアのカルメル会が、私たち外国人のためにあらかじめ購入して、取り付けてくれていたのである。

ともかく、デンパサールのトイレは、普通の水洗トイレ同様、用を足した後、レバー一つで水を流すことができた。これが当たり前ではないことが、会議後、いくつかの修道院を訪問することによって、明らかとなっていく。

（続く）

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（157）



イエスは正しさに飢え渴く

幸いなる神の子であるイエスは、正しさに飢え渴いています。彼は、不正を忌避します。彼は、人を抑圧し、搾取して、富や力を得ようとしている人々に抵抗します。彼の全存在は、人々を思いやり、すべての人を、同じ神の兄弟姉妹、息子娘として取り扱うおうとします。

神の国への道は、沢山祈ることや多くの犠牲を捧げることにあるのではなく、飢えた人に食べ物を与え、裸の人に着る物を与え、病気の人や囚われ人を訪ねることにある（マタ 25：31－46）と、彼は燃えるような心で宣言します。彼は公正な世界を熱望しています。彼は、私たちも同じ飢えと渴きをもって生きるよう望んでいるのです。

(0527)

イエスは嘆き悲しむ

幸いなる方であるイエスは、嘆き悲しみます。友であるラザロが死んだ時（ヨハ 11：33－36 参照）、嘆き悲しみ、やがて滅ぼされるであろうエルサレムの町が見えて来た時（ルカ 19：41－44 参照）、嘆き悲しみます。イエスは、すべての喪失と荒廃を嘆き悲しみ、人間としての心は、痛みで満たされます。悲嘆にくれる人々と共に悲嘆にくれ、泣く人々と共に涙を流します。

暴力、貪欲、欲望、その他の多くの悪は、この地上の風景や人々の表情をゆがめてきましたが、それらはまた幸いなる神の子をも嘆き悲しませることになるのです。神の慰めを体験しようとするならば、私たちも嘆き悲しまなくてはならないでしょう。

(0526)

（九里 彰訳）

年間22主日 (B)

みことばのひびき

あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。

(マルコ 7: 1~8, 14~15, 21~23)

本日の福音では、宗教上の規則を守ることが主として弟子たちのふるまいにおいて語られています。ファリサイ派の人たちは弟子たちの行いを通してイエスを攻撃しようとしていました。イエスの時代までに、律法はもはや神を愛し、神に仕えるための人々の指針ではなくなってしまっていました。律法を守ることそれ自体が目的となっていました。神と人間同志との関係を築くことではなく、自分自身の外面的な態度を調べる点が強調されるようになっていました。

福音はイエスとファリサイ派の人たちとの間の矛盾を表しています。「なぜあなたの弟子たちは食事の前に手を洗わないのですか？」イエスはファリサイ派の人たちの態度に異議を唱えました。手を洗うことが悪いことだというではありません。悪いのは、信心の表現として本当に重要であるものを除外視して、形式的で外面的な行いだけが宗教を形作っているという考えでした。行いにこだわるそのような心が宗教の本質を全て取り去りました。イスラエルの民はモーセを通して神の掟を受け取り、それを注意深く守るように命じられていました。しかし、ユダヤ人にとって手を洗うことは、全存在をかけて神を愛し、また自分と同じように隣人を愛することよりずっと容易いことであり、それほど要求されていることではなかったのです。

イエスは真の汚れのもとについて語ります。汚れのもととは外から入ってくる食べ物や飲み物にあるものではありません。真の汚れは心の中にあります。人は、禁じられている肉を食べたり、血液に触ったり、まして食事をする前に手を洗わなかったりすることで汚れるのではなく、心の奥に起こる「悪い思い」、つまりみだらな思い、盗み、殺意、姦淫、食欲、悪意、詐欺、ねたみ、中傷、傲慢、によって汚れるのです。これら全ては、神と人々との純粋な愛の関係と矛盾します。手を洗うことはこれを変えるのに何の役にも立ちません。私たちに必要なものは、神についてもっと具体的に考える確信をもった態度であり、神に対してまたお互いに対して愛と関心を示すことにあります。

私たちの宗教は聖なるものですから、私たちは聖であるように招かれています。父である神のみ前に清く、純粋な宗教とは、困っている孤児や寡婦たちの世話をすること、この世に汚されないように身を守ることです。私たちは抑圧された者たちのために立ち上がるように召されています。胎児を守るように召されています。無実の罪の人々の血に手をかすことがないように死刑を非難するように召されています。これは神の栄光のために厳しい罪人たちに改心の機会を与えます。聖パウロが初代教会のキリスト教徒たちに行ったことに対して処刑されていたらどうなっていたのでしょうか？ きっと新約聖書の多くの部分は存在しないでしょう！ 私たちは神の言葉の発信者として召されているのであって、私たちの魂から神の恵みを奪うこの世の楽しみの発信者として召されているではありません。キリストの聖なる肢体のメンバーとして聖なる子供であるように召され、「愛、喜び、平和、忍耐、親切、寛大、信仰心、柔和、自己抑制」などの聖なる行いの行為者であるように召されているのです。このような行いに反する律法はありません。キリスト・イエスに属する者は肉体を苦しみと望みで十字架につけるのです。

(Sr. Paulina)

『エッフアタ』と言われた。これは、『開け』と言う意味である』(マルコ 7, 34)。

福音書はギリシャ語で書かれているのですが、アラマイ語の発音「エッフアタ」は、イエスのお口から出たままの力強さ、衝撃と新鮮さをわたしたちの耳にまでも響かせています。今日の福音は、「耳が聞こえず舌の回らない人」の癒しの奇跡なのですが、その奇跡を実行なさるイエスの取られたその方法に注目すべきでしょう。と言っても、「指をその両耳に差し入れ、唾をつけてその舌に触れられた」にではなく、「天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、『エッフアタ』と言われた」にです。このお言葉の力強さにひってきけるのは、創世記の冒頭の「神は言われた。『光あれ』」(創世記 1, 3) だけではないかと思えます。神の愛から出た御言葉による天地の始まり、人間の創造を告げるものです。

イエスがなされた癒しに居合わせた人々も、「すっかり驚いて言った。『この方のなされたことはすべて、すばらしい』」。創世記では、人間の創造をされた後、「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった」(創世記 1, 31)。福音の主題も、癒しと言うよりは、新しい人の創造なのです。今日、御言葉を聴くわたしたちの中にも、この癒し、創造の力が働いています。以下は、ある本の一部の翻訳です。

「主イエス、あなたは、あの不幸な耳が聞こえず下の回らない人を前にして、ため息をつき、同情と共感を示されました。そして、あなたの同情と共感、癒しの奇跡に変わったのです。わたしは、あなたの赦しを乞い求めます。わたしの心の頑なさが、しばしば、多くの兄弟たちを前にして、共に感じ、共に分かち合い、共に感動することを妨げているのです。今日、わたしのために、あなたの「エッフエタ」を繰り返してください、隣人への配慮に基づく美しい言葉を見つけ語ることができるよう。主よ、あなたの愛の不思議な業を前にして、あまりにも鈍感で麻痺したわたしを赦してください。あなたの賛美を歌い、あなたが継続し続けておられる不思議な業すべての語る驚きと喜びの賜物を、わたしに与えてください。あなたは、洗礼の日に、わたしの耳を開き、もつれた舌を解いてくださいました。お願いします、それを続けてください。わたしが、いつも、あなた御言葉を聞き、果たすことができるために」。

ルカ 渡辺幹夫

年間24主日 (B)

みことばのひびき

わたしの後に従いたい者は、・・・自分の十字架を背負ってわたしに従いなさい。

(マルコ 8:27~35)

本日の福音は私たちにイエスの真の独自性を与えることを求め、私たちが個人的に師を見出すように招いています。弟子たちにとって、これは新しい啓示でした。

イエスが弟子たちにはっきり「あなたがたは私を何者だというのか」とお尋ねになったとき、ペトロは皆に代って「あなたはキリストです」と答えます。「キリスト」という言葉は、「油を注ぐ」という意味のギリシャ語からきています。「油を注がれた者」とは、長い間待ち望んでいたイスラエルを救う王、すなわちメシアであるとはっきり言うことです。皆に代って言ったペトロの告白をイエスは受け入れます。これは確かにイエスと弟子たちとの関係において高い点ではありますが、完全なものではありません。イエスのご自分のことについて、ご自分が持つように求められているメシアの性格について、もっと多くのものを弟子たちに伝えたいのです。人々はラビであるイエスがメシアであると聞く準備はできていない、とイエスは弟子たちに警告します。これは弟子たちだけへの啓示なのです。このとき、全く予期しないことでしたが、弟子たちにメシアについての説明がおこなわれます。弟子たちにとってメシアとは何であるかを語り始めます、これはまさに聖書の中で説明されている通りのことです。イエスは多くの苦しみを受け、長老たちから排斥され、犯罪人として処刑され、三日目に復活します。これは弟子たちにとって衝撃的なことで、弟子たちはイエスのメッセージを理解することができませんでした。これは弟子たちが待ち望むように教えられてきたメシアではありません。

ペトロはこれらの言葉に怒りました。人間の中にあるこの世的な考えに逆戻りして、ペトロはイエスを脇へ連れていき、諫め始めました。ペトロは皆を代表して前に進み出て、「先生、そんなことは絶対起りません」と言います。イエスは振り返って弟子たちを見て、ペトロに、そして弟子たちには間接的に言われます。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」。イエスの使命と働きの上で、ペトロは誘惑でありつまずきとなります。これは福音の物語の中で大きな転換点です。私たちは今「このイエスは誰のですか?」という問いに答えが与えられています。今私たちは、彼はメシア、王であることを知っています。しかし、彼は私たちのために苦しみ、死ぬメシアです。マルコ福音の残りの箇所はこの問いへの答えです。十字架のもとで「本当にこの人は神の子だった」と言った百人隊長の言葉で終わります。マルコ福音の「これは神の子であるイエス・キリストのよい知らせです。」という最初の言葉と大変よく似ています。

イエスは私たちが彼の使命を理解し、彼にしっかり従っていくように求めています。イエスの弟子になりたいと思う人は誰でも、自分を捨て、自分の十字架をとってイエスに従いなさい、とイエスは言われます。これは主が私たちに与える挑戦的な求めなのです。私たちはこの難しいやり方で自分の生活の中でイエスを発見し、見出すべきなのです。人の子がどのように苦しむことになるかをイエスは彼らに教え始められたと福音は語っています。そしてイエスは私たちも彼と共に苦しむべきだと教えています。私たちはイエスの呼びかけに応える恵みを求め、日々の生活の出来事の中でイエスは私たちにとって何であるかを発見します。キリストの弟子になるということは、本来「私の霊魂を救う」とか「天国に行く」ということではなく、人間の生活や人間の出来事の流れの中に完全に入り込み、イエスがなされたように他人を愛し、分かち合い、他人といっしょに樂っていくことを通して、その流れの一部となることです。

(Sr. Paulina)

「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」(マルコ 9, 31)。

イエスが、三度も受難と死の告知なさったのは、差し迫った未来の情報伝達ではなく、弟子たちの訓育、形成、養成のためです。「復活する」と、イエスが語ったのは、勝利するのは命である、たとえ、苦しみと死の暗く狭いトンネルをくぐらなければならないとしても、人間の近視眼的視野では、死と悪が勝ったと見えるときにも、最終の勝利は、神の御手の中にあるとのイエスご自身の確信に弟子たちを招くためです。律法と預言者によって語られたイスラエルの全歴史に開示され、教えられている神の支配は、確かに死を過ぎ越して神のみが開く新しい生命へのリズムで、展開されているのではありませんか。イエスは、御自分の生涯を、また、自分たちの生涯を、神の救いの展開、過ぎ越し秘儀として見るように弟子たちを教育しようとしているのです。

一方、弟子たちは、イエスのかなり謎的である言葉を、律法と預言者を参照して明瞭にし、真意をつかもうとはしないで、「だれがいちばん偉いか」との自分たちの目先の関心に心をそらせ続けています。終わりの見えない「すれ違い」。一方に、イエスの旧約の歴史を通して示された御父のなさり方への愛着があり、他方には、あまりにも人間的な自己中心的発想に固執して、御父の道に飛躍できない弟子たちの無理解があります。物分りの悪い幼子のようなものは、実に、弟子たち自身です。

イエスは、弟子たちを、幼子を育てる母親の愛と忍耐で耐え続け、最後には、彼らのために死さえも受け入れます。ユダヤ社会では、子供は、律法も知らず、神のなさり方も分からず、御旨を理解できないものと見なされていました。その子供を弟子たちの真ん中に立たせる、これは、イエスの一種のユーモアかもしれません。

イエスの十字架の死と復活の後、初めて、弟子たちには、神の道が見えてきました。「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」。イエスを救い主と信じるわたしたちにも、この道が見えているのでしょうか。ルカ渡辺幹夫

年 間 第 26 主 日 (B)

「わたしの名を使って奇跡を行い、そのすぐ後で、わたしの悪口は言えまい」

(マルコ 9:38-43,45,47-48)

今日の福音は弟子たちの不満、納得できない思いで始まっています。弟子でもないのに、イエスの名を使って奇跡を行っている者があるということです。弟子たちはすぐにそれを止めさせようとしていました。これに対して主は、“やめさせてはならない。わたしの名を使って奇跡を行い、そのすぐ後で、わたしの悪口は言えまい。”と仰るのです。

このことを通して、イエスは“弟子である”ということの真の意味を説明なさいます。人々の救い、その靈魂の救いのために働く者は誰でも皆キリストの弟子であると仰います。このことを心に留めましょう。“わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。”神は誰にでもその業に参与させてくださいます。教会は、神の真理、神の愛、神の癒しと和解の業を独占するものではありません。カトリック教会の外でも心からの奉獻によって神の業を行っている大勢の人がいます。キリスト教の他のグループの人、仏教徒、ヒンドウ、ユダヤ、イスラムの人などです。何処ででも一たびそれが神の業であることがわかったら、わたしたちは協力して共に働く心を持つべきです。偉大なシャルルドフーコーはマザーテレサのようにこの精神を持っていました。彼らは何処においても神の現存を見、神と共に、神のためにわが身を惜しむことなく働きました。

キリスト教の信仰は本質的に使徒的です。イエスの福音は広く多くの人々に宣教されるべきものです。宣教は教会の指導的な立場にある人に限らず、洗礼の恵みを受けた者一人ひとりの責任であり義務です。イエスは続いて仰います。”キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、誰でも必ずその報いを受ける“と。イエスは”誰でも“と強調なさいます。人々に仕え、神の業を行うことは、全てのキリスト者に与えられている責任だからです。誰でも心からの愛と思いやりをもって、即ち真のキリストの心をもって周囲の人々に仕える人は必ず報われると仰っています。

福音の最後の所で、主はわたしたちが、簡単に人のつまずきとなる弱い存在であることを自覚させて下さいます。罪を犯しやすい者であるということです。もしわたしたちの手、足、目が罪の原因となるなら、直ちにそれを切り捨てるようお命じになります。この弱さは、神の恵みの中で霊的な心を豊かにすることで克服することができます。主イエスとの個人的な特別の関わりと、主が創られた教会の中での自分の立場をしっかりと認識し、キリストの神秘体の一部として心を尽くし魂を尽くしてキリストを愛し、キリストに仕えて歩みましょう。それは神の国の永遠の喜びに憧れ、これを楽しみとしながら世の光となって歩む日々となるのです。

(Sr. Paulina)

ラベル

丸山知佳子

ハーブティーを、種類別に分けて容器に入れる時、私は、容器にハーブの名前を書いたラベルを貼ります。わかりやすく便利だからです。

ある時、ラベルを書きながら、ふと思いました。私は、知らないうちに、色々な人達にも、ラベルを貼っているかもしれない。「この人はこういう人だ」と決め付け、便利に分類してしまっているかもしれないと思ったのです。

ラベルを貼ってしまったその瞬間に、その人を見失ってしまいます。ラベルは、まるで、相手を押し花にしたようなものだと思います。でも、花が、一番その花らしく美しいのは、押し花にした時ではなく、風に吹かれて揺れながら野に咲いている時です。同様に、一人の人間は、常に、生き生きと動いて変化し続けているのですから、「押し花」になど出来ないのでしょう。

この世に生きてると、知らないうちに、お互いに対してラベルを貼ってしまっているかもしれません。人間が書いたラベルは、色あせたり、書かれた文字が滲んだり、剥がれ落ちたりしますね。

神さまは、永遠の愛のインクで、私達一人ひとりに、「私の愛する子」というラベルを貼ってくださっているのではないのでしょうか？神さまが一度貼ってくださったラベルは、誰にも剥がすことなど出来ないし、色褪せることもありませんね。出会う人達にも、そして自分自身にも、神さまの「愛する子」という永遠のラベルが貼られていることを、忘れないようにしたいです。

この8月、上野毛教会は誕生から60周年を迎えました。

教会報7月号はその記念号となり、先輩諸氏の綴られるこれまでの歩みなどが掲載されましたが、読みながら長い年月をたどり、たくさんの方々のご尽力にあらためて敬意の念を深くしています。同時に慈しみ深い神さまのお導き、カルメル山のマリアさまのご保護を強く感ぜずにはられません。

私が初めて上野毛教会の門をくぐったのは1968年頃ですが、それでもすでに40年余りを数え、私自身の人生の大半を越えます。

この間の40年という歳月は時代としてみても大きな変動をもたらした40年であり、あらゆる面でのさま変わりは目をみはるものがありますが、特に教会は、コンピューター時代の現在からすれば、まるで中世さながらとでも云いたいほどに古めかしく、仄暗く囲われてひっそりとしていました。

木立のなかに沈む修道院、黙想の家、信徒会館も木造の奥ゆかしいたたずまいをかもし、香り立つ大樹の精気、暗い植込みの黒土の匂い、冷房設備を知らない扇風機の風、小さなストーブの炎など、老いの繰り言ではありますが記憶に鮮やかで、今もありありとよみがえるのです。

私は30歳の頃であり、それまでの私といえば戦後の民主主義の教育を受け、きつと畏れを知らずに懸命に、誠実に、意気揚々と生きていたのです。キリストに遭遇することさえなかったなら恐らくはこのままに喜び、苦しみ、泣いて、笑って、ただどこかでは心の深みに巣くう底無し不安、絶望の予感を抑えて、健気に一生を終えていたかもしれません。

しかし、あらゆる全てを絶するお方との出会いによって、そのような自分はあえなく一切切総崩れとなり果てました。初めて知る罪深いわが身でした。あわれみの愛にすがって180度回心した「谷川の水を求めてあえぎさまよう鹿」のような苦しい再生の道程は、おぼつかない赤子の第一歩から上野毛教会のふところに抱かれて始まりました。

思い返せばほんとうにたくさんの方々に育てていただきました。

人生を動かす出会い、交わりがあり、身を切る悲しさに怯える別れがありました。志をともにする切磋琢磨があり、ゆるぎない真剣さをもって相互ということを深く深く学び合いました。これは今なお続くことです。

いつの日か主にまみえる時には、リジューの聖テレジアのように空の手でと憧れますが、もし唯一主のみ前に誇れるものがあるとするなら、心開き関わり合うがために、不可避に魂に刻まれる無数の擦過傷こそであると思っています。

洗礼の日、「教会に何を求めますか」と問われ、「信仰を求めます」と応えました。

今、視界は360度となって茫茫と果てがなく、この身を支えるものは何もありません。 日常生活のひとつひとつがしっかりと輪郭をもちます。

これを信仰と呼ぶのだろうかと思い、また、切に恋い慕うお方との濃密な交わりなのだとも思えます。

上野毛教会60周年はなぜかわれ知らず促されるものが深くあって、母である教会への思慕を募らせ、私自身の来し方のかえりみるよすがとなりました。

心動くままに本箱から「教会憲章」を引っ張り出したり、古色蒼然ル・フォールの「教会への讃歌」を引っ張り出したりで、「教会」を思いめぐらす静かな長い時間を得ました。

そして新しい気持ちになって、日曜ごとに皆で唱え祈っている「新しい時代に向かう上野毛教会を探し求める祈り」を手にとり、切に祈りました。

旅する私は、旅する教会と常にひとつでありたいと希います。 キリストを慕い強く呼び求め、キリストに倣い固く従って、贖われたこのいのちを教会において全うしてゆきたいと希います。

教会を初めて訪れたとき6歳と4歳だった二人の息子の、青年期での洗礼、そして結婚、3年前の夫の洗礼・・・みな母である上野毛教会の温かなふところの中で運ばれました。

やがては夫と私の葬式、しかりでしょう。

いのちの言葉 8月

人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、
わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。
しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、
わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。

(マタイ 10・32-33)

この言葉は、私たちすべてのキリスト者に、大きな慰めと励ましを与えてくれます。

イエスは私たちに一貫した信仰をもって生きるよう勧められます。私たちの永遠の行き先は、この地上で私たちがイエスにどのような態度を取るかにかかっているからです。もし私たちが人々の前で、自分はイエスの仲間であると言い表すなら、彼もまた父の前で、私たちを認めてくださり、逆に、私たちが人々の前で彼を知らないと言うなら、彼もまた父の前で私たちを知らないと言う、とおっしゃっています。

イエスは私たちを愛しておられるので、地上の生活の後で待っている報いと罰に、私たちの注意を向けさせようとされます。ある教父の言葉にもあるように、罰への恐れは、時に、素晴らしい約束よりも効果があることを、イエスは知っておられるのです。ですからイエスは、私たちの心に限りない幸せへの望みを育まれると同時に、私たちを救うために、罰への恐れを抱かせるのです。

イエスは、私たちが永遠に、神と共に生きられるようになることに、心をかけておられます。そして、これこそが、唯一大切なことなのです。この究極の目的のために、私たちは地上で生きるよう招かれました。事実、神と共に生きてこそ、私たちは完全な自己実現に至り、すべての望みを満たすことができます。そのためイエスは、この

地上にいる内から、自分を彼の仲間だと言い表しなさい、と勧められています。反対に、もしこの世で私たちがイエスとの関わりを持とうとせず、今この時、彼を知らないと言うのであれば、私たちがこの世を去る時、永遠に彼から断ち切られてしまうでしょう。

私たちが人生を終える時、イエスは、各々が地上で何を選んだか、その結果どうなったかを、御父の前で明らかになさるでしょう。またイエスは、最後の審判について話しながら、私たちがこの地上でする決心が、いかに重要で真剣なものかを示しておられます。実際、それは私たちの永遠の命に関わることなのです。

人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。

このイエスの忠告を、どのように生かし、実行に移すことができるでしょうか。

「わたしの仲間であると言い表す者は…」とイエスご自身がおっしゃっているのですから、単純に、人々の前で自分がイエスの仲間であると言い表しましょう。世間体にこだわるのをやめ、また、キリスト者としての本物の生き方を私たちから奪う、どっちつかずの

妥協した生き方から、抜け出しましょう。私たちは、キリストを証しするように召されていることを思い出しましょう。キリストは、ご自分の平和、正義、愛のメッセージが、私たちを通してすべての人に及ぶよう望んでおられます。

ですから、家庭や職場、友人関係や学校で、また生活の様々な状況の中で、キリストを証ししましょう。そしてこの証しを、まず行動を通して示しましょう。つまり、実直な生活、誠実な態度、また金銭に執着をもたず、他人の喜びや苦しみを分かち合うことによって、などです。

何よりも、私たちの相互愛と一致によって、それを証ししましょう。イエスと結ばれている人々に約束された、真の平和と喜びが、この地上にいるうちから私たちの魂を満たし、ほかの人々の上にも注がれるためです。

そして「この苦しみの多い世の中で、どうしてあなたはそのような態度が取れるのですか」、「なぜそんなに穏やかなのですか」と、だれかが尋ねるなら、謙虚に、聖霊が導くままに、率直に話しましょう。こうして私たちは、言葉によっても、また考え方においても、キリストを証しすることになります。それにより、キリストを探し求めている多くの人々が、彼を見いだすことができるでしょう。

時には、誤解されたり、反論や嘲りの的となったり、敵意をもたれたり、迫害されたりするかもしれません。イエスは、このことも予告しておられます。「人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたをも迫害するだろう」(e1)と。それならいっそう私たちは正しい道歩んでいるのです。ですから、試練の中にあっても、命を求められても、勇気をもってキリストを証しし続けましょう。私たちの目的地である天国は、それに値するものです。そこでは、私たちの愛するイエスが、御父の前で、永遠に私たちを認めてくださる

でしょう。

キアラ・ルービック

* 1 : ヨハネ 15・20

* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、1984年7月に発表されたものです。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

●お知らせ

- ★ **関東： いのちの言葉の集い**
- ★ **とき** : 9月9日(日) 14:00から
- ★ **ところ** : 藤沢市労働会館にて

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.cocan.jp/>

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (61)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

祈りは何をもたらすのですか？ (2)

「…聖人は、この答えに大変喜ばれ、数日の間、神の美しさについて人々が感嘆するような非常に崇高な事柄を話しておられました。こうして、この愛に導かれて、この時、“楽しみましょう、愛する方よ。行きましょう、あなたの美しさの中で互いを見るために”で始まる5つほどの歌を作りました。

こういうわけで一群の歌が生まれましたが、これは、『**霊の賛歌**』の最後の部分の詩です。彼がその著作でもっとも多く語っている神の属性は、美しさについてのものです。十字架のヨハネのような芸術家、神秘家においては、それは何も不思議なことではないでしょう。

神さまって何ですか？

すでに指摘したように、十字架のヨハネは、対話による教育方法、ソクラテス的なやり方がとても気に入っていました。グラナダに住んでいた時、修道院に「単純で純粋な魂」の、フランシスコという名前の助修士がいました。共同体の休憩時間に、聖人は、このフランシスコに、霊的な事柄に関していろいろ質問するのが好きでした。そうすることによって、何らかのテーマをより幅広く説明するための手がかりとしたのです。助修士の思いもかけない答えの数々は、聖人を喜ばせました。

ある日、ヨハネは彼に質問しました。

「わが子フランシスコよ、神さまとは何か言ってくれませんか」。

彼は考えこむことなく、二度こう答えました。

「神父様、神さまとは、自ら望む通りのものです」。

非常に鋭敏なヨハネ修士は、その返事が、もっとも純粋無垢な心によって息吹かれた霊的で深いものであることを理解しました。そしてフランシスコ修士の言葉は、神がどのように他の者から独立し、どのように自分の愛をコントロールしているかについて、語っているのです。すべてのカテケーシスは、神の自由についてのカテケーシスだからです。

このフランシスコは、アシジの聖フランシスコの何人かの仲間たち、すなわち『**小さき花**』の中で名誉ある言及がなされている人々と瓜二つなのです。 (続く)

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

跣足カルメル修道会 宣教師国際大会

跣足カルメル会の宣教師国際大会が、全カルメル会宛てのメッセージをもって閉会

サン・ロケー ブラジル発 (2012年7月27日)

カルメル会の宣教事務局の招集に応じて、カルメル会ファミリーの41名の司祭と修道女達が、7月24日から26日までの3日間、テレジア的カルメルの宣教活動に関する過去、現在、未来を考察するために集まりました。

大会では、全部で12の講話がそれぞれの専門家によって提供され、カルメル会の宣教カリズムが喚起させられました。このカリズムは、イエスの聖テレジアの霊的な神秘体験から生じたもので、それは、歴史の上に具体化し、改革派修道院創立から始まり、聖女自身が生き後世に遺した、神なるイエスの体験を分かち合いたいという望みを持つ人々を生み出していく発展的な動きとなっていきます。

今回、テレジア的カルメルのメンバーと自認する聖テレサの息子や娘たちは、自分たちの特質である宣教者の精神を勢力的に活性化させたいとの思いを抱いて、カルメル会が存在する世界の様々な地域からサン・ロケの大会に参集しました。

閉会式の挨拶は、ブラジルのこの地に集まったすべての宣教者たちの呼びかけの総括したもので、全カルメル会に向けて発表されました。詳細はウェブサイト上の、www.ongcarmel.net で見るすることができます。



カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～'13年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読 指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2012年

9月 7日～ 9月 8日

11月30日～12月 1日

2013年

3月 1日～ 3月 2日

2. 奉獻生活者の為の黙想会

12月27日(木) 18時～2013年1月5日(土) 福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

年間テーマ 「信仰」

9月 6日 「信仰の成熟」 渡辺幹夫神父

11月29日 「信仰とは？」 中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日10時～16時)

12月14日 「十字架の聖ヨハネ」 中川博道神父

2013年

2月22日 「カルメルの原始会則の霊性」 渡辺幹夫神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

11月23日(金)～11月25日(日) 「信仰に生きる」

6. 一泊黙想会 (18時～翌日16時) 福田正範神父

10月1日(月)～10月2日(火) 「幼きイエスの聖テレジアとともに」

7. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2012年12月24日(月・振休)～25日(火)《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子（ノートル・ド・ヴィ）

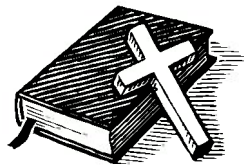
初日の夕食は済ませてご参加下さい。

10月19日（金）20時～21日（日）16時 信仰の年にあたって（Ⅱ）

9. 聖週間前の黙想会（2013年） 福田正範神父

※注）2013年

3月17日（日）18時～3月19日（火）16時 過ぎ越しの子羊・キリスト



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きたることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2012年9月7日（金）18時～8日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）



* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764



一泊黙想会



幼きイエスの聖テレジアとともに

*2012年10月1日(月)18時夕食～2日(火)16時

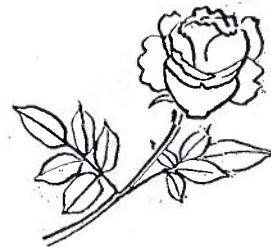
指 導: 福田正範師(カルメル会司祭)

場 所: カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

会 費: 一泊参加……………¥6000



◎日帰り参加ご希望の方(10時～16時)は、¥3500



お問合せ・お申込み: カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093世田谷区上野毛2-14-25 TEL.03-5706-7355

FAX:03-3704-1764

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会 <わたしは神をみたい>

信じない者ではなく
信じる者になりなさい

2012年10月19日（金）20時～21日（日）15時

「信仰年」を迎えるにあたり、

日々の生活のなかで復活されたキリストと出会うために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

わたしを信じる者は

その人のうちから

生きた水が

川となって 流れ出るようになる。

ヨハネ7・38



- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 聖書、『いのりの道』（聖母の騎士社、聖母文庫）
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158 - 0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
- お申込み： F A X：03-3704-1764 Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
または、ハガキにてお申込み下さい。



カルメル青年黙想会

信仰に生きる

カトリック教会は 2012 年 10月 11日から 2013年 11月 24 日まで信仰年を迎えています。

この機会に同世代の青年男女たち、またカルメル会士と共に「信仰」について理解を深め、今までの歩みを振り返り、今後の生き方を見つめてみませんか。



ANNO DELLA FEDE 2012
2013

- 日 時 : 11月23日(金) 15時 ~ 25日(日) 16時
場 所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対 象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)
定 員 : 20名
費 用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
締 切 : 11月16日(金) <必着>
指 導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。



158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
電 話 : 03(5706)7355
FAX : 03(3704)1764
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp





講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

10月16日	10月19日
11月20日	11月16日
12月11日	12月11日(火曜日)
2013年 2月26日	2013年 3月1日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

9月25日	9月28日
10月30日	11月2日
12月4日	12月4日(火曜日)
2013年 2月12日	2013年 2月15日

キリスト教の基本を学ぶ

— 洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に —

いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》 夜のクラス《19:30~21:00》

8	9月14日	「人間の問題性に関わる神」
9	9月21日	「イエス・キリストに出会う」
10	10月12日	「福音が語るイエス・キリスト」
11	10月26日	「イエス・キリストの自己理解」
12	11月9日	「キリストに近づく」
13	11月30日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1)
14	12月7日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2)

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

2012年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

一般のための黙想 1泊2日(午後5時～午後4時)

9月 1日(土)～2日(日) 神の国の訪れ 松田浩一神父

11月24日(土)～25日(日) 黙示録 新井延和神父

聖書深読黙想会 1日(午前10時～午後4時)

10月 6日(土) 新井延和神父

12月22日(土) 新井延和神父

水曜の黙想(午前10時～午後4時)

9月 5日(水) テレーズと共に 今泉健神父

10月17日(水) 終生おとめ聖マリア 松田浩一神父

11月14日(水) キリストの第二の到来 今泉健神父

12月12日(水) 受肉 新井延和神父

待降節の黙想(午後5時～午後4時)

12月1日(土)～12月2日(日) 今泉健神父 肉となったみことば

聖テレーズの黙想(午後5時～午後4時)

9月30日(日)～10月1日(月) 伊従信子師

カルメル青年黙想会(午後5時～午後4時)

11月10日(土)～11月11日(日) カルメル会士 観想者聖マリアに従う

一般のためのカルメルの霊性入門(午後5時～午後4時)

10月14日(日)～10月15日(月) 松田浩一神父

イエスの聖テレサの靈魂の城の導入

奉獻生活者の黙想(午後5時～午前9時)

12月27日(木)～1月 5日(土) 新井延和神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(月)～12月25日(火) [講話なし、各食事つき]

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

講座：テレジアは現代に何を語るか

＜アビラの聖テレジアの生誕 500 年祭に向けて、彼女の著作を読む＞

場所：京都河原町カテドラル横の教区事務局 6F ホール

日時：下記の各月日の午後 2 時半より 4 時まで

入場無料

5 月 19 日（土） 新井延和 神父

『自叙伝』による「テレジアの涙」

6 月 16 日（土） 松田浩一 神父

『創立史』にみる信仰の歩み

9 月 22 日（土） 九里 彰 神父

『完徳の道』に見る「祈りと生活」

10 月 20 日（土） 中川博道 神父

「神の住まいであるわたしたち」

『靈魂の城』を聴きながら

11 月 17 日（土） 渡辺幹夫 神父

「三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、
地上に苦しむキリストの神秘体との連帯」

『小品集』による



男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457

 teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

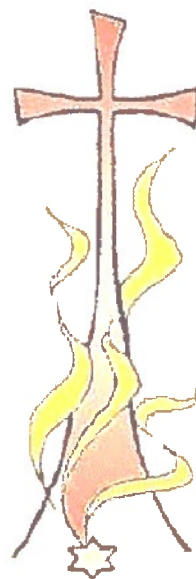
【参加者人数】

6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ② | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ③ | | 3月16日(金)～17日(土) |
| ④ | | 4月13日(金)～14日(土) |
| ⑤ | | 6月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑥ | | 7月13日(金)～14日(土) |
| ⑦ | | 9月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑧ | | 10月12日(金)～13日(土) |
| ⑨ | | 11月 9日(金)～10日(土) |
| ⑩ | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ⑪ | | 2月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑫ | | 3月 8日(金)～ 9日(土) |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

聖テレーズの黙想会

2012年9月30日（日曜日）5時—10月1日（月曜日）4時

テレーズの命日、祝日に

テレーズといっしょに祈りのひと時をもちませんか



わたしは死ぬのではありません

命に入るのです

わたしは地上で
善を行いながら
天国を過ごしましょう



指導： 伊從 信子

場所： カルメル会 聖テレジア宇治修道院（黙想）

611-0022 宇治市木幡御蔵山39-1

持参するもの：

新約聖書、『弱さと神の慈しみ』（サン・パウロ社）

『テレーズの祈り』（聖母の騎士社）

筆記用具、パジャマ

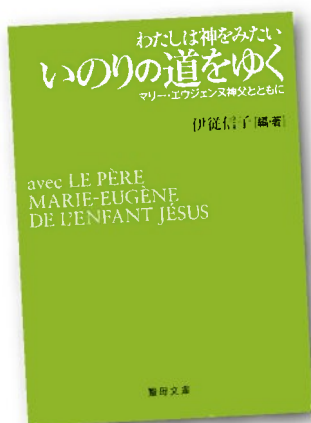
申し込み先：ファクス 0774-32-7457

電話 0774-32-7016

e-mail teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

少しの時間、**新刊案内**
いのりのみ言葉に
耳をかたむけてみませんか

わたしは神をみたい **いのりの道をゆく**
マリー・エウジェンヌ神父とともに



伊従信子編・著

師は、神と親しく生きるように神が多くの人々を呼んでおられること、そして、その人々を神との一致にまで導くように、神が自分を召されたことを自覚していました。ですから、師はその生涯の終わりまで、社会で日々の生活を営むすべてのキリスト信者が聖性に召されていることを強調し、聖性への道を提供する務めを使徒職とする人々の養成を熱く望んでいました。
([はじめに]より)

ISBN978-4-88216-339-8 C0195
268 281頁 定価**630**円(税込)

▼▼▼こちらもおすすめ!▼▼▼



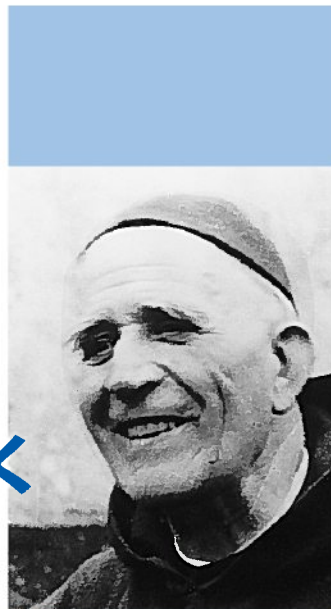
神と親しく生きる **いのりの道**

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従信子訳

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか……真理、善、美、生きる意味、神との関わりを捜し求めている人たちへ送るメッセージ。

ISBN978-4-88216-307-7 C0195
246 207頁 定価**525**円(税込)



聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

ご注文・お問い合わせ先

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2012）

「イエスにお目にかかりたいのです」

—今の時代から「イエスに会いたい」と問われているわたしたち—

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12:21)。この願いは、(中略)大聖年を過ごした私たちの耳にも霊的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的にでなくとも、キリストについて「語ってほしい」だけでなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光の輝かせることではないでしょうか。

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を親想しない限り、わたしたちのあかしは耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません。
(教皇ヨハネパウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」 p. 22)

第1回	1月9日(月・祝)	キリストの御顔の親想と宣教(全体の導入)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月 4日(土)	苦しみとイエスに出あうこと	福田正範神父 (上野毛修道院)
第3回	3月31日(土)	イエスの聖テレジアにおけるキリストの福音	松田浩一神父 (宇治修道院)
第4回	4月14日(土)	復活したキリスト：復活のラウレンシオ	今泉健神父 (宇治修道院)
第5回	5月26日(土)	聖霊が働く	新井延和神父 (宇治修道院)
第6回	6月16日(土)	三位一体のエリザベットと宣教	九里章神父 (本部修道院)
第7回	7月 7日(土)	聖体と宣教：ヘルマン・コーヘン	古川閑雅神父 (上野毛修道院)
第8回	9月22日(土・祝)	マリー・エウジェニス姉 人々を神への親しさへと導く	Sr.伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	10月20日(土)	布教の保護者、幼きイエスの聖テレジア	Sr.パウリナ(宣教カルメル修院)
第10回	11月23日(金・祝)	十字架の聖ヨハネと宣教	九里章神父 (本部修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2012年度名古屋聖書深読会

第2回 10月27日(土)

新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2-115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30 ~ 16:00 の予定で行います。

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき（来る時間も帰る時間も自由）、
霊的にだけでなく、心身ともにリフレッシュできる時間として御利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:00 ~ 16:00

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

13:30 ~ 15min. 聖書朗読、短い講話

14:30 ~ 15min. ベネディクション、聖体顕示

15:30 ~ 15min. 聖体拝領

16:00 ~ サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です。



霊性センター

毎月第2日曜日 14:00 ~ 15:00 カルメル霊性センターの講話があります。

日曜日、午後の一時、心の耳を澄ませてみましょう。

日時 毎月第2日曜日

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

14:00 ~ 講話（講師：カルメル会士）

15:00 ~ ミサ

カルメル霊性センター

〒 921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーパー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会
CWC (キリスト者婦人の集い)

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2012年予定

- N 3 09/20 (金) -9/26 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- P 3 09/30 (日) -10/06 (土) 西宮・女子トラピスチヌ
- K 4 10/12 (金) -10/18 (木) 東京・小金井・聖霊会
- N 4 10/28 (日) -11/3 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 5 12/01 (土) -12/07 (金) 東京・小金井・聖霊会

2013年予定

- K 1 1/26 (土) -2/1 (金) 東京・小金井・聖霊会
- M 1 2/24 (日) -3/2 (土) 宝塚売布・女子御受難会
- N 1 3/6 (水) -3/12 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 2 4/6 (土) -4/12 (金) 東京・小金井・聖霊会
- S 1 4/14 (日) -4/20 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
- N 2 5/2 (木) -5/8 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 3 6/7 (金) -6/9 (日) 東京・小金井・聖霊会 (研修会 2泊3日)
- M 2 6/23 (日) -6/29 (土) 宝塚売布・女子御受難会

真命山の靈性



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで **祈り**



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を分かち **交わり**

御聖体、愛の秘跡



- 1月12日 愛の秘跡である御聖体
- 2月 9日 信仰の神秘
- 3月 8日 「過越」の子羊
- 4月12日 教会を生み出す御聖体
- 5月10日 御聖体とおとめマリア
- 6月14日 キリストによって、キリストとともに、キリストの内に御聖体に生かされて生きる
- 7月12日 御聖体
- 8月 休み
- 9月13日 御聖体の典礼と美
- 10月11日 御聖体と福音の宣教
- 11月 8日 御聖体礼拝
- 12月13日 終末の宴

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先
865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

リーゼンフーバー講座・集いの案内 2012年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト
教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関
してHP(文末)を見て下さい。

夏学期: 近代前半の霊性と思想 (15世紀後半～17世紀) 09/01、09/08

冬学期: 近代後半・現代の霊性と思想 (18世紀～21世紀初頭)

10/06、10/13、10/20、11/10、11/17、12/01、
12/08、01/05、01/12、01/19、01/26、02/02、
02/09

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全
体、10月31日、1月2日は休み。

●黙想

・「会社婦りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45
分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。8月14日、28日はク
ルトゥルハイム聖堂。

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40
分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月7日は休み。

・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全
体、10月31日、1月2日は休み。

・通う霊操 8月18日(土)～8月26日(日)18時～20時45分
上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内SJハウ
ス第5会議室

講話、黙想、ミサがあります。

9月1日、10月6日、11月10日、12月1日、2013年1月5日、2
月2日、3月2日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50
分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙想会

9月29日(土)10時～30日(日)14時(東村山)、

11月24日(土)10時～25日(日)14時(東村山)、

2013年2月16日(土)10時～17日(日)14時(東村山)。1泊
6600円程度。

[関西] 10月27日(土)13時30分～28日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 18時～20時30分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、
4月5日は休み。3回坐り、間に講話。

●坐禅接心

秋川神冥窟。1泊2400円(+暖房費)程度。

9月14日(金)20時30分～17日(月)10時

10月31日(水)20時30分～11月4日(日)10時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18
時)。上智大学内SJハウス第5会議室

6月2日(土)、2013年1月26日(土)

2012年10月21日(日)の集いは13時から。岐部ホール4
階404(予定)

●クリスマス

クリスマス会:12月15日(土)16時～20時30分。岐部ホー
ル4階404(予定)。要申し込み。

クリスマスのミサ:12月23日(日)14時～上智大学内クル
トゥルハイム聖堂(80人限定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2012年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 08/31: イエスの復活— 今に生きるイエス/(上智大学内クルトウルハイム2階)
- 09/07: 聖霊— 神の愛に導かれる
- 09/14: 祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関わる
- 09/21: 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる
- 09/28: 教会の成立と意味— イエスを中心に集う
- 09/29-30: ●黙想会(東村山)
- 10/05: 人間としてのイエス— 新しい人間像の基礎づけ
- 10/12: 御子としてのイエス— イエスの神との関係
- 10/19: 父と子と聖霊— 神の生命に与る
- 10/26: 信仰の決断— 支えられて生きる
- 11/02: ○休み
- 11/09: ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧
- 11/16: 自己実現と神の意志— 生き方の規範
- 11/24-25: ●黙想会(東村山)
- 11/30: 人間の弱さ— 罪とは何か
- 12/07: 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける
- 12/14: 愛の心— キリスト教の本質
- 12/15: ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404-予定-)
- 12/21: 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う
- 12/23: ◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階、80人限定)



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2012年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [イエス]
- 09/04: 史的イエス— 活動と生き方の特徴
- 09/18: 神の国— イエスの使信
- 09/29-30: ●黙想会(東村山)
- 10/02: 根本たる愛— 律法の完成と克服
- 10/16: 受難による救い— イエスの救済的役割
- 10/30: 死からの命— 復活の認識・経験・理解
- 11/06: キリストはだれか— キリスト理解の発展
- 11/20: 御子の受肉— 神の子と人の子
- 11/24-25: ●黙想会(東村山)
- [聖霊]
- 12/04: 神の内的現存— 人間における聖霊の働き
- 12/15: ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404-予定-)
- 12/18: 三位一体の神— 救いの構造から神内の存在へ
- 12/23: ◆ミサ(14時、クルトウルハイム2階、80人限定)
- [教会]
- 01/15: 信仰者の共同体— 教会の本質
- 01/29: 救いのしるしと実現— 秘跡の意味
- 02/05: 憐れみと愛の祝い— 罪のゆるしとミサ
- 02/16-17: ●黙想会(東村山)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2012年
9月15日(土)
10月27日(土)

講話 伊従信子

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

主日の福音の 分かち合い

2012年 9月28日(金)10月26日(金)
11月30日(金)12月21日(金)

午前 10:30~12:00

福音を読んで、分かち合い、祈りましょう。

どなたでも、ご参加ください。



主催：マリアの御心会

JR「信濃町」下車徒歩3分

問い合わせと申し込み TEL 03-3351-0297

働く人のための
祈りの集い
みことばの分ち合い

時間 19:00~20:30 (第2水曜日)

2012年9月12日 10月10日

11月14日 12月12日



主催：マリアの御心会
JR「信濃町」下車徒歩3分
お問い合わせ 申し込み

TEL 03-3351-0297

軽食あり、自由献金



「来て、見なさい」

「イエスとの関わり」

—主よ、私の道はどこに

—祈りと分かち合いを

通して探して行きましょう

テーマ：空の鳥をよく見なさい

日時：9月9日(日) 14:00~16:00

対象：自分の道を探している

35歳までの独身女性

次回 (10月14日 11月11日 12月9日)

場所：マリアの御心会 (JR 信濃町下車3分)

会費：各回500円

担当：マリアの御心会会員

お問い合わせ・申し込み TEL03-3351-0297

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580 Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
④10月 27日(土)～ 11月 4日(日)
⑤12月27日(木)～13年1月 4日(金)
B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
⑥ 9月 21日(金)～ 9月23日(日)
⑦ 11月23日(金)～11月25日(日)
- ◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

信じます
わたしをお助けください
力のないわたし

2012年度 召命黙想会

日時：**10月13日(土) 15:00～**

14日(日) 15:30まで

場所：ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導：山内 十束 神父(御受難会)

対象：独身女性信徒

費用：2,000円

締切：10月7日(日)

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

—観想の祈りへの道—

日時： 9月19日（水）、11月21日（水）

12月19日（水）

14：00～16：00

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール

12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

アビラの聖テレジアの「霊魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

CWC（キリスト者婦人の集い）

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

日時： 9月18日（火）、11月20日（火）

12月18日（火）

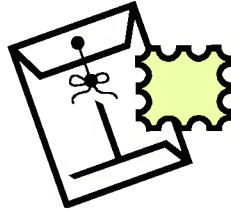
10：30～12：00

場所：真生会館

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

靈性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



来年(2013年)1月から12月までの『靈性センターニュース』
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。
年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

来年1月以降のお申し込みは、
翌月から12月までのお申し込みとなります。
例：1月申込の場合は、2月号～12月号(8月号休刊除きます)
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込受付期限：12月20日まで

申込先：下記の靈性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

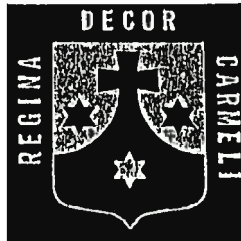


編集後記

7月30日(月)～8月3日(金)にかけて、インドネシアのデンパサールで、東アジア・オセアニア地区のカルメル会の国際会議があった。1994年に第一回会議が日本の宇治で開かれてから、今年で第19回目の会議となる。日本の他、韓国、フィリピン、台湾・シンガポール、オーストラリア、そしてインドネシアの6管区が集まる。

今年は、「小教区司牧とカルメル会のカリスマ」というテーマで話し合いが行なわれ、管区長の他、小教区(教会)担当の司祭が参加し、討議が行なわれた。そのプログラムの時間外で、管区長だけの会議も二三回持たれた。

会議後、私だけ残り、三つの養成共同体を訪問した。バリ島のデンパサールから、チモール島のクバンに飛び、そこからさらにフローレス島のバジャワへ飛び、バジャワからは車で悪路を3時間余かかってマロンゲラへ行く。生活水準がそのたびに下がって行くのが分かった。若い時、よく山登りをし、山小屋に泊まるのに慣れていたことが、大いに役立った。何が幸いするか分からないものである。(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「10月号」製本日 9月25日(火)

上野毛教会信徒会館ホール 1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171